

# [解答例]

## 国語〔A方式(11/22)〕

設問		解答例
①	問一	① 4
		② 2
		③ 1
		④ 5
		⑤ 2
	問二	⑥ 6
		⑦ 5
		⑧ 1
		⑨ 3
	問三	⑩ 1
	問四	⑪ 5
	問五	⑫ 1
	問六	⑬ 3
	問七	⑭ 1
	問八	⑮ 4
②	問一	① 2
		② 5
		③ 8
	問二	④ 5
	問三	⑤ 5
		⑥ 2
		⑦ 4
		⑧ 4
	問四	⑨ 2
	問五	⑩ 3
	問六	⑪ 5
	問七	⑫ 3
		⑬ 2
		⑭ 1
		⑮ 5
		⑯ 5
		⑰ 4
		⑱ 6
		⑳ 1
	㉑ 3	

## 国語〔B方式(11/22)〕

設問		解答例
①	問一	① 4
		② 5
		③ 2
		④ 3
		⑤ 2
	問二	⑥ 2
		⑦ 3
		⑧ 6
		⑨ 1
		⑩ 5
	問三	⑪ 5
		⑫ 3
	問四	⑬ 2
	問五	⑭ 5
		⑮ 3
		⑯ 4
	問六	⑰ 4
	問七	⑱ 5
	問八	⑲ 2
②	問一	① 3
	問二	② 4
	問三	③ 5
	問四	④ 4
	問五	⑤ 2
		⑥ 1
		⑦ 2
		⑧ 4
		⑨ 4
	問六	⑩ 3
		⑪ 2
		⑫ 4
	問七	⑬ 3
	問八	⑭ 4
	問九	⑮ 5
		⑯ 3
		⑰ 1
	問十	⑱ 5
		⑲ 3
		⑳ 3
㉑ 3		

国語(A方式)

国語①

問三 空所に適文を入れる問題。空所の前に「科学技術者に対するステレオタイプな認識を示すおもしろいジョークがある」とあることから、空所には一般の人の、「科学技術者に対するステレオタイプな認識を表す文が入ることがわかる。ジョークの中の科学者の発言は専門用語や数値を用いることで」「面白い、話がおもしろくない」点が強調されているため、選択肢①が正解。また、このジョークでは、悲観論者・楽観論者・科学者が対比されており、空欄には「科学者」に対する認識が入ることから、「悲観的」、「悲観論者」という言葉を含む②、⑤はそれぞれ誤り。③は「皮肉屋だ」が誤り。④は本文にそのような記述はないので誤り。

問四 傍線部の内容を問う問題。本文によれば、「科学について語る」とき、「従来の流儀では、いわゆる科学技術の『専門家』が情報を与え、『素人』がそれを拝聴するという構図」となり、「一方通行的な意識に立ったものとなりがち」であり、このような流儀では「コミュニケーションが成り立たない」ことを筆者は指摘している。また、その原因として、「専門の細分化にともない、科学技術者が異分野の人とコミュニケーションしたいという意欲が薄れていること」や、「一般に、科学は難しいもの、取っつきにくいものという認識が蔓延している」ことを挙げている。よって、この内容を述べた選択肢⑤が正解。①は「意欲が消え失せてしまったから」が、②は「コミュニケーションも一つの専門技術として細分化されてしまったから」が、③は「意欲的な『素人』に啓蒙的な知識伝達を行うことができた」、「科学技術者のコミュニケーション意欲もおしなべて薄れてしまった」が、それぞれ誤り。④は、本文にそのような記述はないので誤り。

問六 傍線部について筆者の考えを問う問題。筆者は傍線部の後の文で、科学者がサイエンスカフェのような場に登場することの「本人にとつての大きなメリットは、第三者に自分の科学を語ることで自体が思わぬ発見につながりうること」であり、それは「社会にとつてのメリットでもある」と述べている。よって、この内容を述べた選択肢③が正解。①・⑤は、本文にそのような記述はないので誤り。②は「科学の諸分野の統合がもたらされる」が、④は「科学者ではない人に」が、それぞれ誤り。

問七 傍線部について筆者の考えを問う問題。傍線部の「こんなの」とは、前の段落で説明されている、「デイナセンター」で開かれているサイエンスカフェを指しており、「地元コミュニティで行なわれる本来のサイエンスカフェがミニコミだとしたら、マスコミ的なイベントを目指したのがデイナセンターのサイエンスカフェ」であると述べられている。また傍線部の後の段落で、日本でもさまざまなサイエンスカフェの様式やイベントが試行錯誤されていることが示されており、筆者は「各地の実情に合ったサイエンスカフェの実現」に肯定的であることがうかがえる。よって、この内容を述べた選択肢①が正解。②は「マスコミ的なイベントを目指す方向にかじを切るのはやむを得ない」が、③は「自身としては日本の実情に密着したサイエンスカフェを立ちあげ」が、④は「日本ローカルのミニコミ的サイエンスカフェを世界進出させるという理想を抱いている」が、⑤は「ダラス氏の理想を一つの極論として」「筆者自身の計画する地域に根ざしたサイエンスカフェを対置する」が、本文にそのような記述はないのでそれぞれ誤り。

問八 傍線部から筆者の考えを問う問題。本文に、「困るのは、科学技術に対する不信感が芽生えることである」とあり、筆者は「科学技術は、はたしてわれわれの安心・安全を保証してくれるのか」という疑問、あるいは無力感が、「反科学や偽科学、怪しげな宗教の台頭を招きかねない」ことを懸念していることがわかる。よって、この内容を述べた選択肢④が正解。①は、本文の「科学技術に対する関心の低下だけならばまだいい」と合致しないため誤り。②・③・⑤は、本文にそのような記述はないので誤り。

国語②

問四 波線部の理由を問う問題。波線部の前の部分に「一日の身命を助けがたきほどの貧窮の者なり(一日の命をつなぐこともできないほど貧窮している者である)」とある。また、波線部の後の部分に「夢想到に聖人來たりて曰く、『汝は、前生無施心故に、貧窮に生まれたり』(夢に聖人が出てきて言うことには、『お前は、前世で施しの心がなかったために、貧困の者として生まれた』)」とある。よって、男がしっかりと食事をしていかなかった理由は、前世での所行の報いによる貧困から、わずかな食糧しか得られなかったことであるとわかる。よって、選択肢②が正解。

問五 波線部の理由を問う問題。波線部の理由は、傍線部Aで、「主だに死すれば、力用失せて、隠れ糞、隠れ笠も頭はれ見ゆるなり」と説明されている。「主」である「鬼」が死んだので、「隠れ糞」「隠れ笠」の効力が消えて、「鬼」自身も、「隠れ糞」「隠れ笠」も見えるようになっていたのである。よって、選択肢③が正解。

問六 本文の内容の読み取りを問う問題。男は一日の命をつなぐこともできないほど貧窮し、「はかばかしく食事もせぬ身」だったにもかかわらず、大塔の心柱を立てる仕事を手伝い、「思はぬほかに被レ因、非能の力を尽くして疲れたるかな」と思っていることから、選択肢①は合致する。「心柱に手を付けて結縁したりし故に、宝塔の利生にて、如レ此鬼の二宝を授けたり(心柱に手を付けて仏道に入る縁を結んだために、宝塔のご利益によつて、このような鬼の二宝を授けた)」とあることから、選択肢②は合致する。男が鬼の糞笠をはいで行くと、「知人に行きあひ、あるいは家に行きたれども、たれも何とも言はず」とあることから、男の姿も、糞笠も見えなくなったことがわかる。よって、選択肢③は合致する。「これは、鬼の持たる隠れ糞、隠れ笠なり」とわかった男は、人の家から物を取ることなくり返し、「如此するほどに、財宝充滿せり(このようにしていると、財宝がいっぱいになった)」とあることから、選択肢④は合致する。男の夢に現れた聖人は、男が心柱に手を付けることで仏道に入る縁を結んだために、隠れ糞と隠れ笠を授けたと説明し、「信心を致して、親のため塔を建て、所願成就すべし(神仏の力を信じて祈り、親のために塔を建て、願いをかなえるがよい)」と述べている。よって、選択肢⑤の「いずれその報いを受けなければならなかった」が本文の内容に合致せず、選択肢⑤が正解。

## 国語〔B方式〕

### 国語①

問四 空所補充問題。空欄Aに入る語は、「あすとらん」という言葉「古代の象」「夢」であり、「在りし日の歌」の中で使われているこれらの言葉について、「あるときの空と雲のあり方の正確なジョジュツ」ではないと述べられている。また、ソシユールの概念によると、Aは「意味するもの」言葉そのものに對する「観念」であると説明されている。以上から、Aは言葉のもつ「イメージ」であるとわかる。また、空欄Bを含む段落の冒頭に「詩の言葉は、くもりガラスみたいなもので、くガラス自体の存在がそこにはつきりとある」「音とか目で見たときの字の感じとか、そういうことも大切」とあり、詩の中では言葉が、そこに存在するものとして扱われていることが説明されている。よって、Bは「もの」が適当。以上から、空欄A・Bともに適当な語となっている選択肢②が正解。なお、Aを「内容」や「対象」とすると、直後の「または観念」に合わないため、選択肢①・④は誤り。Aを「形式」とすると、「形式」は「意味されるもの」ではなく、直前の「意味されるもの」に合わないため、選択肢③・⑤は誤り。さらに、Bを「内容」とすると、後の文の「同時に意味がそれに重なってくる」に合わないため、選択肢⑥は誤り。

問六 傍線部の内容を読み取る問題。傍線部の後の文に「ソシユールの言葉では、『*genian*』と『*genie*』の両方が大切です。音とか目で見たときの字の感じとか、そういうことも大切です」とあり、詩においては「意味されるもの」だけでなく、「意味するもの」も重要であることが述べられている。つまり傍線部は「詩人は「ガラス（言葉が「話されたときの音や書かれたときの形」）を見ると同時に、外の景色（言葉がもつ意味）を見る」ということである。よって、この内容を述べた選択肢④が正解。①・⑤は、本文にそのような記述はないので誤り。②は「言葉の透明性を重視する」が、③は「ほとんど重視していない」が、それぞれ誤り。

問七 傍線部の内容を読み取る問題。傍線部の後の文に「すべての詩の翻訳は、意味の訳であると同時に、原作の言葉そのものも持っている味わいの、別の言葉でのつくり替え、つまり、創作ということになるでしょう」とある。つまり、詩の翻訳では、原作の意味を単に訳すだけではなく、「原作の言葉そのものも持っている味わい」をもたらししている「意味するもの」を別の言葉で表現し直すことになるということである。よって、この内容を述べた選択肢⑤が正解。①・③・④は、本文にそのような記述はないので誤り。②は「意味されるもの」を超越する内容を表現することが目指される」が誤り。

問八 傍線部から筆者の考えを問う問題。傍線部を含む段落に「詩における言葉の使い方は、日常生活における使い方と密接に結びついていて、「そういう特徴は、詩ばかりでなく、多かれ少かれ文学一般についてもいえる」とある。つまり、日常生活の中で育まれる「実体としての言葉に対する感覚」の違いが、作家ごとの文体の違いをもたらしているというのである。よって、この内容を述べた選択肢②が正解。①・③・⑤は、本文にそのような記述はないので誤り。④は、「自らの感性や思考の自然な流れに即して」が誤り。

### 国語②

問七 傍線部の内容を問う問題。傍線部Aは、「明るい」を意味する形容詞「あかし」に過去の助動詞「けり」が付いているため、「月が明るかった夜」という現代語訳となる。また、傍線部Bは、「夜明けまで過ぐす」という意味の動詞「あかす」に、尊敬の助動詞「す」・尊敬の補助動詞「給ふ」が付いているため、「南面で夜明けまで過ぐされる」という現代語訳となる。よって、選択肢③が正解。

問八 傍線部の内容を問う問題。「かの恨み」は「あの未練」、「いまだ消え失せざるがゆゑに」は「まだ消え失せていないので」という意味であるため、傍線部は「あのかを残念に思う気持ち」が、まだ無くなっていないので」という現代語訳となる。よって、選択肢④が正解。傍線部の前の文に、「貞敏がために

今一曲を残して、再会長く黙止せり（貞敏に伝えるべき曲を一曲残したまま再会できなかつた）、傍線部の直後に「この曲を君に奉り、すみやかに妄念を払ひ、執心を休め侍るべし（この曲をあなた様に伝えることで、迷いを払い執着心を安らかにしようと思う）」とあるように、廉承武の霊は残念な気持ちにとらわれ続けているのである。

問九 A群 廉承武の霊は、「仙雲に乗りて、ただ今、空を過ぎ侍るに、御琵琶の散音らうたくして（仙雲に乗って、ただ今、空を通り過ぎるときに、あなた様の琵琶の演奏が美しく）、その美しさに「心茫茫たり。仙術、験を失ひて、既にここに推参を企つる（うっとりとなるあまり、仙術が解けてしまい、ここを訪れました）」と述べている。よって、廉承武の霊は以前から源高明を知っていたわけではないので、選択肢⑤が問題文の内容と合致する。①は「恐ろしく思つて」が、②は「あななる気持ち」が、③は「恐ろしい姿を見せて」が、④は「霊の話に驚き」が、それぞれ誤り。

B群 本文の最後の段落に、「古事談とて、江師の書きおき給へる物語には、村上の聖主、清涼殿にして玄上をあそばされけるに、この霊、孫廂に推参のよしを記し給へるとかや。さしもの才脚、定めて見給ふ所こそ侍らめども、村上の帝は御筆ばかりなり。御琵琶の沙汰は、有りとも承らず（「古事談」といって、大江匡房卿が書き残された物語には、村上天皇が清涼殿で玄上をお弾きになつたおり、この霊が孫廂に参上してこの曲を伝えたと書かれているとか。学才の優れた卿のことですから、何か典拠があるのでしようが、村上天皇は筆ばかりをお弾きになつたそうです。琵琶をお弾きになつたとは承つておりません）」とある。つまり作者は、村上天皇が筆ばかりを弾いていたことから、霊から琵琶の曲を伝えられたとする「古事談」の内容に對して疑問を唱えているのである。「清涼殿」は天皇の日常の居所であり、宮中にあたる。よって、選択肢③の「この話の本当の舞台は宮中だったと考えている」が問題文の内容と合致しない。